

「小貝川堤防決壊 40 年シンポジウム」に参加しました（2/6 実施）

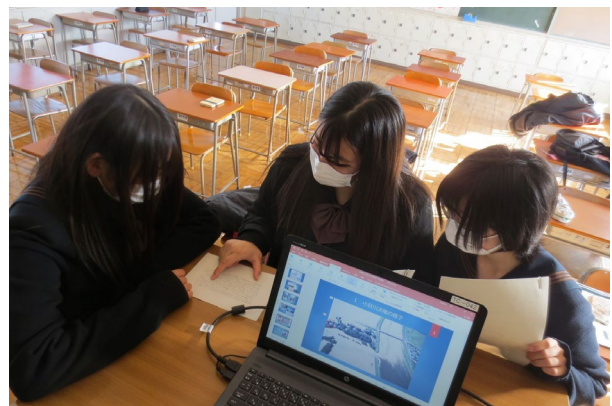
2月6日(日曜日)、大昭ホール龍ケ崎（龍ケ崎市文化会館）大ホールにおいて、龍ケ崎市が主催する「小貝川堤防決壊 40 年シンポジウム～龍ケ崎市市民防災フェア 2021～」に参加しました。

シンポジウムは、昭和 56 年に小貝川の堤防が決壊し龍ケ崎市が大きな被害を被ってから 40 年が過ぎ、災害の記憶を持たない住民が人口の半分以上を超えようとしていることを踏まえて、40 年の節目に開催されました。災害の体験をどう伝えるか、経験の無い世代に自然災害への備えの必要性を理解してもらうためには何が必要かを考えるため「災害経験の伝承」をテーマとして、龍ケ崎市内の高校 4 校が招かれ、事前に行われたワークショップを踏まえた発表を行いました。

本校からは 3 名の生徒が参加し、1月15日（土曜日）に実施されたワークショップで堤防決壊場所を見学した生徒が感想を述べました。まとめとして、今後に向けた改善策として「地元の災害について、知る機会を設けることの大切さ」、「正しい情報を見分けるためにはどうすれば良いか」について提言しました。



ワークショップの様子（1月15日）



前日の発表準備（2月5日）



本番前リハーサル



プレゼーションの様子



NHK の糸井アナウンサーから質問を受けました



質問に回答しています